

ASEAN Young Women Leadership Program 第2回レポート

経営学部 4年 相川 陽香
2年 町田 夕樹

留学生活も4ヶ月が過ぎました。慌ただしく時間が流れ、セブでの生活も残り3ヶ月だと思えば週末 家にこもることもなくなりました。平日は授業の復習、課題に追われ... 休日はクラスメートとご飯を食べに行ったり買い物に出かけたりなど、オンとオフがはっきりした充実した毎日を送っています。

皆さん、セブで暮らすバジャウ族をご存知でしょうか。海の上に家を建て、海の幸を採り、生活をしているセブのマーメイドと言われている民族です。無国籍の漂海人とも呼ばれています。国境ができる前から魚介類を狩りながら船の上で生活をしてきましたが、近代化に伴い海岸沿いに家を建てて住むようになりました。観光特区となったセブの大規模な都市開発や環境汚染によってバジャウ族の元々の生業であった漁での生活が厳しくなり、街に物乞いに行く人たちが増えているのが現実です。それが原因で、フィリピン人からは悪いイメージを持たれ、世間からはバジャウ族＝下等種族という酷い人種差別が根付いてしまっています。





先日、そこで子供たちと一緒に流しそうめんをするボランティアに参加してきました。彼らの生活は私達にとって本当に衝撃的で、刺激的で、なんというか生きる力を見せてつけられた気がしました。バジャウ族の人たちはすごく親切で、みんな笑顔で素敵...彼らに出会えて幸せの闘値が下がったと思います。家で料理して家族みんなで食べて、みんなで一緒にの空間に寝て。トイレしたくなったら穴の空いてる床から海に。何か困ったことがあったら親戚や近所のみんなが助けてくれる。すごく温かい人たちや空間があつて。ただただ温かかったです。

蛇口をひねれば安全な水が出て、清潔なトイレを使用でき、食べたいものもある程度選択ができる生活。それは当たり前じゃなく、ありがたいこと。そう感じられたら、日常に小さな幸せが溢れ、心もより豊かになれる気がします。

バジャウ族の村を訪ねられたことは私達にとって本当に貴重で価値のあることでした。

勇気をもらいたい人、何かを変えたい・変わりたい人、幸せ上手になりたい人はぜひバジャウ族を訪ねてみてください。